

支団長は名カメラマン

〈執筆者〉

北消防団大沢支団本部 副支団長

小西 元八



北消防団大沢支団

支団長 西山 ^{たけのみ} 武史 さん

大沢町は神戸市の北西部に位置し、四方を山に囲まれた地域です。加古川と武庫川の上流の分水嶺を築き、東西3.5km、南北5.3kmと狭く、北区八多町・淡河町・長尾町・三木市吉川町に隣接した、人口約1220人(380世帯)の小さな農業の町で、春にはイチゴ狩り、秋には芋堀りやそば道場も開かれます。中でも特筆すべきは、わが町で生産される米のおいしさです。また、醸造用米である山田錦の生産地でもあり、日本酒の原料を大切に育てています。

町内には、果樹と花で知られる神戸市立フルーツフラワーパークもあり、農業と観光の両面で、大勢の観光客がわが町を訪れます。

そして何ととっても、真夏の大イベントである「どろんこバレーボール神戸大会」の開催地が、わが大沢町であり、毎年8月第1日曜日には町の人口以上の若者がここに集まり、熱き闘いを繰り広げます。

近年、周辺は急激に変ぼうし、長尾町との境には住宅地や大型ショッピングセンターなどができ、自動車の通行も急増しました。静かだった農村にも、近代化の波が押し寄せています。

そんな大沢町の防災のために、約半世紀の長きにわたり尽力されているのが、北消防団最年長の西山支団長です。

西山支団長は、家業が自動車整備工場であり、息子さん(元分団長)と二人三脚で頑張っておられます。そして、いざ災害というときには誰よりも早く現場に駆け付け、指揮を執りながらデジカメ片手に写真も撮られ、消防団や消防署の活動資料として活用されています。

また、訓練や研修会、各種大会などにはビデオカメラを設置し、時には自らビデオカメラを抱えて撮影を行い、記録作りに奔走されています。趣味で始められたというカメラ撮影ですが、今では欠かすことのできない貴重な記録写真・映像や研修用資料として、消防団活動に大いに役立っております。



いずれは消防団を勇退されますが、いつまでもお元気で、カメラマンを続けていただきたいと願っております。